
走る密室（リベンジ）

takosashi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

走る密室^{リベンジ}

【Nコード】

N1561W

【作者名】

takosashi

【あらすじ】

拙作「走る密室」をお読みくださった方々にお贈りいたします…

（前書き）

これは以前の僕の作品「走る密室」をさらに面白くなるよう、発展させたものです。なるべく皆さんが悩んでいただけるように書きました。でも、案外すぐにトリックを見破られてしまうかもしれません。例によって、ご感想、アラ探し、大歓迎です。

K町とT村をつなぐ峠道で…

不審な車が停車しているとの通報。車種は青のヴィッツで、非常によく見かけるものだった。

運転席に座ったままの遺体を発見。

被害者はK町の企業に勤務する吉崎史恵さん。よしざきふみえ（31）

吉崎さんの首には、太いロープ状のもので絞められたような跡があり、

検死の結果、窒息死と断定された。

例によつて、玉木と井岡の二人に出動要請。

「こりゃ…一体…」

「見てください。窓はすべて閉まったまま、フロントガラスには傷一つない。発見されたときはエンジンがかかっていて、ドアは口ツクされていたそうです。やはり運転中に絞殺されたものと考えられます」

「誰か、オレたちを困らせて喜んでないか？」

第一発見者は、被害者の車の反対車線から通りかかった、被害者とは面識のない男性。

「そりゃ驚いたよ。こんな真つ暗なのに、ライトもつけないで駐車してるなんて危ないな、と思つてね。すれ違いざまに車の中をちらつと見たら、女の人死んでるんだものな。目玉が飛び出して、舌がこーんなに長く伸びてね。なむあみだぶ…夢に出てきそうだよ」

「ライトが、ついていなかった？」

「ああ。もしライトがついていれば、車の中は外からは真っ暗で、
なにも見えなかったと思うよ」

「ふーん…」

「今度こそ、懸賞金が必要かもな。不可能犯罪ってやつだ」

「いえ…あきらめるのはまだ早いです、玉木さん」

「オレには見当もつかんぞ」

「不審な点がいくつかあります」

「…なんだ？」

「まず被害者が運転していたのはオートマティック車で、発見されたとき、ギアはパーキングに入っていました」

「ということは、まさかガイシャが死んでから止めたわけじゃないが、何者かが車を止めた、ということだな。これがマニュアル車なら、エンストして勝手に止まるところだがな」

「そうです。ガイシャの死後、車を止めた…あるいは止めたと見せかけた者がいる」

「…どうということだ？」

「案外、簡単なトリックかもしれません」

「なんだって?!」

井岡は、刑事たちに、

「不審な自転車を見かけた者がいないか調べてくれ。それと、ガイシャはクラクションを鳴らして、助けを呼んでいた可能性がある。それについても、近くの民家をあたってくれ」

玉木は、

「なるほど、クラクションか…しかし、自転車ってのはどういうことだ。まさか…」

「そのまさかです。今回の凶器は、おそらく自転車です」

そのトリックとは…

「ガイシャの首にロープを巻きつけ、車に乗るよう強要する。ここまでではいいですね？」

「ああ」

「そして運転席側の窓を開けて、そこからロープを引っ張りだし、自転車の後ろに固定します」

「……」

「そして自転車は車の向きとは逆方向に走り出します。そうすると、どうなりますかね？」

「ガイシャはギアをバックに入れ、必死に自転車に追いつこうとする……自転車はおそらくかなりスピードが出せるスポーツタイプ。なるほど、アクセルを思い切り踏み込んで、衝突させて抵抗する、という手が使えない。前方に向かって走っているならともかく、バックではな」

「そのとおりです、玉木さん。そしてガイシャは窒息して、あたかも運転しながら絞殺されたように見せかけることができる」

「……なるほど。そしてガイシャの死亡を確認したホシは、情性でのろのろ走っている車のドアを開けて、ロープを回収する。そしてギアをバックから、パーキングにして停車させる……」

「そしてパワーウィンドウのボタンを押し、窓を閉め、ドアをロックさせたまま、バンと閉める。これで、『走る密室』の出来上がりです……おっと、その前に……」

「車のヘッドライトを消したんだな？」

そう……誰かに発見させ、自分の不可能犯罪を誇示するために……

（終）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1561w/>

走る密室（リベンジ）

2011年10月9日01時49分発行